

～下田のデキゴト～



7/23 海の祭典

白浜海の祭典が白浜大浜海岸で開催されました。夕暮れの白浜を背にフラダンスや白浜太鼓が披露され、また、打ち上げ火花が上がると観客たちの笑顔を見ることができました。



7/24 クリーンキャンペーン

下田ライフセービングクラブは、海水浴期間中、クリーンキャンペーンを毎日実施しました。7月24日には海浜回収ペットボトルリサイクルプロジェクトの一環として多くの海水浴客の方と共にごみ拾いを行いました。



8/8 いつでも地域の見守り

下田ガス株式会社様が、新たに下田市高齢者見守りネットワーク協力事業所となりました。高齢者と触れ合う機会が多い事業所の皆さまには、高齢者の異変に早期に気づき見守る力を発揮していただきます。



8/14 伝統と技術の継承

下田八幡神社例大祭が規模を縮小し3年ぶりに行われました。伝統と技術を継承することを趣旨とし神輿に代わる金幣と太鼓台が各町内を巡行し、境内で供奉道具の奉納が行われ地元笑顔が届けました。



8/21 世界に1つだけのフォトフレーム

中央公民館大会議室にて、中央公民館講座オリジナルフォトフレーム作り体験教室を開催しました。夏休みの思い出に、シーグラスなどを使って素敵な作品を作ることができました！



8/24.31 高齢者スマートフォン講座

市民文化会館にてスマートフォン講座が開催されました。約40名の皆さんにご参加いただき、スマートフォンの基本や便利な使い方について、実際に操作しながら学んでいただきました。

8月の できごと

- 9日 青色防犯パトロール実施者研修会
- 10日 全国瞬時警報システム一斉伝達訓練
- 11日 下田認定まち遺産親子散策教室
- 17日 寿大学

- 18日 下田モデルリビングクラブ
- 24日 市内各小学校・中学校始業式
- 26日 子育てサポーター養成講座
- 27日 下田ランデブー

地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎02200



10月の予定

- 3日(月) 体育館で遊ぼう 9時30分～11時
場所：市民スポーツセンター(サンワーク)
- 5日(水) めだかルーム 9時～11時30分
- 7日(金) おでかけ広場 ※午後閉館(清掃・消毒)
- 12日(水) あひるルーム 9時～11時30分
- 17日(月) 下田幼稚園交流
- 18日(火) 誕生会
- 19日(水) うさぎルーム(敷根公園) 9時～11時30分
- 21日(金) ふれあい遊び ※午後閉館(清掃・消毒)
- 24日(月) 発育測定・育児相談 9時～11時
保健師講話 保健師・栄養士来所
- 25日(火) 知育ヨガ(村瀬助子先生)
- 26日(水) 子育て応援にこここサークル 読み聞かせ
- 27日(木) ハロウィン製作
- 28日(金)



※予定は変更になる場合があります。

詳細は子育て支援センターまでお問い合わせください。



プール遊び



誕生日会

日中の暑さは続いています、朝夕の風が心地よく感じられるようになってきましたね。涼しくなってくると、夏の疲れがでて、体調を崩しやすくなります。睡眠を十分にとり、バランスのよい食事を摂るように心がけ、大人も子どもも健康管理に気をつけていきたいですね。

支援センターでは、9月から「年齢別ルーム」が始まります。同年齢の子と一緒に遊びながら親子で交流を深めていきましょう。年齢にあった玩具、環境を用意しています。第1・2・3水曜日の午前は、年齢指定の日になります。遊びにきてくださいね！



フロアの様子



図書館出前講座

こんにちは、市長です

出典
山田太一
夏の故郷
大和書房

これまで地方のまちの課題について考えてきて、今回は「このまちには魅力的な仕事がない」。これは多くの地方に共通する今日的な課題です。もちろん、中にはそんなことはないと言いう人もいます。素晴らしい自然環境を生かした新しい仕事を自分たちで考えて移住して行く人も少なくありません。また、これからはリモートワークなど働き方が多様化して「魅力的な」仕事も増え、さらには地方での起業を後押しする政策も次々に打ち出されています。こうした社会的潮流をとらえ、市として様々なチャレンジを進めていきたいと思っています。

一方で実はもう一つ大事なものを忘れてはいけません。それは、そこでもう一度、ドラマ「夏の故郷」に戻りましょう。東北の農家の青年たちのリーダー役の峰竜太さんが正子(竹下景子さん)に告白するシーン。彼が言う。俺は農業が好きだ。蒔いた種が

一斉に芽を出す感動する、と。しかし、正子の母に阻まれ、正子の方も少し気持ちが傾いたところへ父親から、東京に帰って冷静に考えろと諭されるなど結局うまくいきません。また、正子の兄は、東京で心身を壊して戻ってきた昔の恋人に優しく、ついには反対を押し切り結婚を決めるなど、どうもちぐはぐです。

しかし、作者の山田太一はラストに彼らへのやさしい眼差しを送ります。それは、正子が東京へ帰る電車の中、窓の外を眺めながらの独白です。「お父さん、お母さん、いろんなことがあったお盆でした。お父さんたちの思い通りになったことは一つもなかったのかもしれない。でも、みんなとても一所懸命だったと思います。(中略)いい夏でした。こないだいい夏です。せた故郷を私は誇りに思っています。お正月にはきつと勤めをやめて帰るつもりです。小姑が帰ったら兄ちゃん迷惑かな?フフ、フフ、フフ」